

放射線健康影響（内部被ばく線量）調査結果通知書

岩 手 県

1 氏名等

様（生年月日：平成 年 月 日、性別： ）

2 測定結果及び預託実効線量（内部被ばく線量）の評価

尿中にどのくらい放射性物質を排出しているかを調べた測定結果及びあなたがこれまでに摂取した放射性セシウムによる預託実効線量（生涯累積の内部被ばく線量）は、次表のとおりです。

核 種	測定時間	測定結果 (Bq/l)	預託実効線量 (mSv)
I-131 (ヨウ素131)	3,600秒 (60分)	不検出 (検出限界0.00)	-
Cs-134 (セシウム134)		0.00	0.000
Cs-137 (セシウム137)		0.00	
K-40 (カリウム40)		00.00	-

注1) 測定結果 (Bq/l) は、ゲルマニウム半導体検出器で計測した尿1l当たりの放射性物質の量を表します。

注2) 預託実効線量 (mSv) とは、体内からの内部被ばく線量について、成人で50年間、子どもで70歳までの生涯の累積線量を示すものです（考え方や影響については、裏面を参照願います）。

注3) 預託実効線量の推計は、次により行っています。

ア 測定結果と問診票の採尿記録により計算される1日当たりの排出尿量と放射性物質の量を用います。

イ 採尿記録が一部欠落等している場合は、採取できた採尿時間と尿量から時間当たり平均尿量を計算し、1日当たり尿量を推計しています。

ウ 平成23年3月12日から尿採取終了日の前日まで放射性セシウムを慢性的に経口摂取したとして、独立行政法人放射線医学総合研究所が開発したアプリケーションソフト(MONDAL3)により推計・評価します。

注4) K-40 (カリウム40) は天然に存在する自然放射性物質（自然放射線）です。放射線医学総合研究所では、尿1リットル当たりの排出量について日本人（全年齢平均）で約40ベクレルと試算しています。

3 全体評価

今回の調査対象者全員の調査結果については、「別紙（公表資料）」のとおり、「放射線による健康影響はきわめて小さいと考えられる。」と評価されています。

4 生活上の留意点等

(1) 内部被ばくに関して

今回の調査結果を踏まえると、これまでと同様の食生活を継続しても健康に影響が及ぶとは考えにくい状況です。流通段階で検査が行われている（一般的に市販されている）食品については特段の心配は必要ないと考えられますが、空間線量の高い地域の野生のきのこや山菜を食べる場合は、念のため汚染レベルを把握する必要があると思われます。
また、地面からの土ぼこりや砂の舞い上がりを大量に吸入しないようにして下さい。

(2) 外部被ばくに関して

現在、年間1mSv以下という目標で除染等の放射線量低減作業が進められていますが、一部、線量の高い場所（いわゆるマイクロホットスポット）が存在している場合は、そこに長く留まらないなど、できるだけ外部被ばくを避けることが望ましいと考えられます。

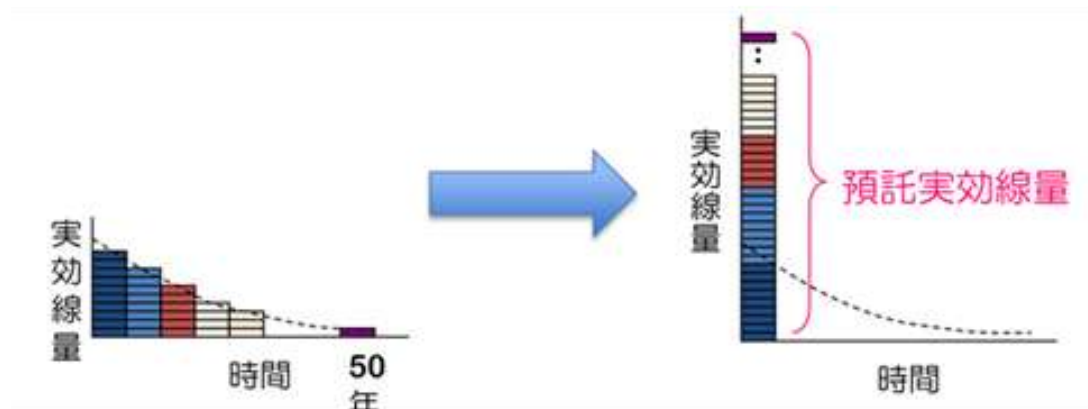
(3) 健康影響に関して

今回明らかとなった放射線の内部被ばくによる発がんリスクは、喫煙はもちろん、高塩分食、野菜不足等によるリスクに比べ極めて低いと考えられます。発がんリスクの低減には、低いリスクをゼロに近づけるよりも、食事を含む生活習慣の改善に努めることが効果的と考えられます。

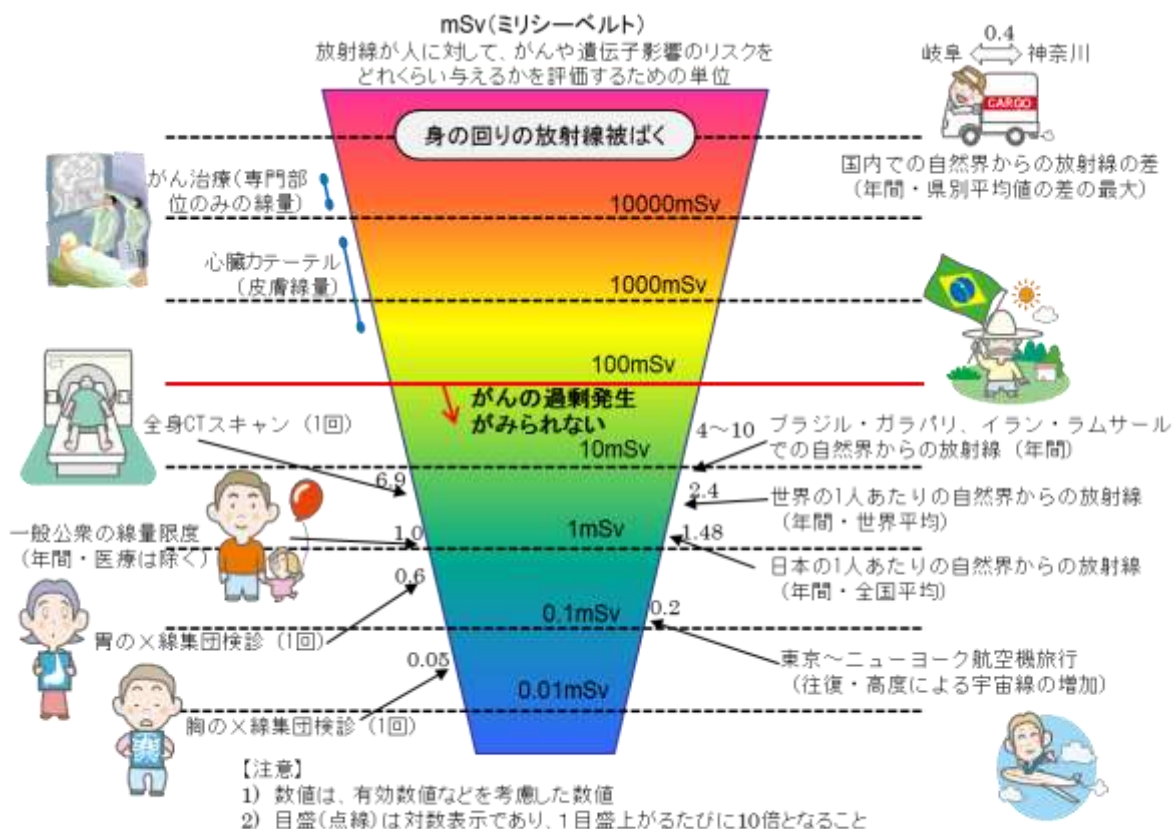
○ 預託実効線量

内部被ばくの場合、放射性物質が体内に摂取された後に一定期間体内に留まり、その間は放射線を受け続けますが、時間とともに体内から減少します。そのため、内部被ばくによる線量は「預託線量」といって、摂取した放射性物質から将来にわたって受ける放射線の総量を考えます。

預託線量は、ある放射性同位元素により人体が受ける放射線量について、一生分を積算した総量です。特に実効線量に着目して一生分を積算した線量を「預託実効線量」と呼びます。



○ 放射線被ばくの早見図



資源エネルギー庁「原子力2010」及び(独)放射線医学総合研究所資料
(原典: UNSCEAR2000年報告書、ICRP2007年勧告等)から作成